

情報ボックス

今回は「始点と終点の理解からつながる力や芽生える力」とその教材について紹介したいと思います。

「始点と終点の理解」については、大まかに 運動感覚的理解・視覚的理解・聴覚的理解 に分けることができます。これらの特徴と教材例を以下の表に示します。

	特徴	教材例
運動感覚的理解	体や物が動くとはじまりが分かり、止まると終わりがわかる。	運動遊具、感覚刺激のおもちゃなど
視覚的理解	目で見てはじまりと終わりが分かる。	光、動画など
聴覚的理解	音が鳴るとはじまりが分かり、音が止まると終わりが分かる。	音、音楽など

本校の指導で使用している教材と指導方法例を以下に示します。

運動感覚的理解の教材 トランポリンやハンモック



揺さぶり遊びをする場合

- ①「せーの」の声掛けをする。
- ②表情を確認し、抱きかかえて揺らす。
- ③表情の変化を観察しながら刺激を続ける。
- ④「おしまい」の声掛けで、揺れを止める。
- ⑤子どもの反応を待つ。
- ⑥反応が見られてから、①から繰り返し行う。

視覚的理解の教材 きらきらうちわ



- ①子どもの目の前までうちわを近付ける。
 ・動きのある物の方が見えやすい傾向にある。また、突然目の前に提示されるよりも遠くからゆっくり近付いた方が見えやすくなることもある。
- ②言葉掛けはせず、子どもの反応をみる。
- ③子どもが反応を示さない場合は、うちわを左右に動かしたり、遠ざけたり近付けたりする等、子どもにとって見ることに注意が向く提示方法を探す。

視覚的理解の教材 児童生徒の好きな音や音楽（卓上ベルやハンドベルなど）



- ①安定して反応できる音（曲）を一定時間聞かせ、表情の変化や不随意運動等があるまでの時間を測定し、音に注意を向けることができる時間の実態把握を行う。
- ②安定して反応できる音（曲）を一定時間鳴らし続け、注意を向けさせる。
- ③安定した反応があることを確認する。
- ④反応が確認できたら、合図等なく音（曲）を止め、止まったことに対する反応を確認する。
- ⑤②から繰り返し、音（曲）が止まったことに対する反応を見る。

次回に続きます。